

基調講演

# 『4年目の提言』

ブロック活性化構想

## 今日の内容

- 協会の歴史について
- 協会の主な取組みと考察
- 平成26年度への提言
- まとめ

## 協会が出来る前

- 平成9年度  
道は、北海道痴呆性老人グループホーム推進検討事業を創設。  
【目的】  
痴呆性老人グループホームは、残された能力を活用し、継続した自立生活を支援するための新しいサービスメニューであるが、痴呆の進行を穏やかにする効果があることから、現在介護している家族等からのニーズも高く、その運営やケアの手法などについて、できる限り早急に全道に普及する必要があるので、先駆的な実践例を参考に、北海道におけるグループホームの在り方、運営や処遇の方法などについて情報、意見交換などを行うため、市町村、保健・福祉関係機関、利用者等による検討会議を開催し、市町村の事業展開を積極的に支援する。  
【実施主体】  
事業の実施主体は、北海道とする。

**【検討内容】**

- ◆国の報告内容及び先駆的グループホームの実践例等の情報及び意見交換、道内外施設調査研修計画の検討、施設実地調査実施計画の検討
- ◆施設視察結果報告、北海道におけるグループホームケアの在り方、処遇方法、運営方法等について検討意見交換
- ◆国庫基準によるグループホーム運営実施状況報告及び問題点等意見交換、施設実地調査実施報告、評価検討
- ◆グループホームの普及推進方策の検討、ケアの水準確保、ケア方法の在り方など検討、検討会議(実践例)報告書の作成

## 北海道痴呆性老人グループホーム検討会議

**【目的】**

この検討会議は、痴呆性老人グループホームの先駆的な実践例などを基に、北海道における痴呆性老人グループホームケアの在り方や、今後の普及・推進方策を検討するため、保健福祉関係者等による検討会議を開催し、道内の事業展開を支援することを目的とする。

**【検討事項】**

- 1)道内、道外先駆的痴呆性老人グループホームの調査に関する事。
- 2)先駆的実践施設における処遇研修の実施に関する事。
- 3)グループホームケアの在り方等に関する意見交換に関する事。
- 4)痴呆性老人グループホームの推進方策等の検討に関する事。
- 5)検討会議に関する報告書を作成する事。
- 6)その他関連事項に関する事。

## 構成委員名簿

区 分	氏 名	現 職
委員長	浦沢喜一	(財団)北海道老年医学研究協会 専務理事
委 員	加藤伸司	北海道医療大学看護福祉学部 看護福祉学部教授
委 員	林崎光弘	シルバービレッジ函館あいの里 施設長
委 員	大久保幸積	特別養護老人ホーム幸豊ハイツ 施設長
委 員	武田純子	グループホームひまわり 所長
委 員	村上勝彦	北海道老人福祉施設協議会 特別養護老人ホーム帯広けいせい苑 施設長
委 員	加藤隆正	北海道老人保健施設協議会 (社福)南静会 理事長
委 員	木村芳人	釧路社会福祉協議会 事務局長
委 員	大内高雄	美唄市在宅老人デイサービスセンター 施設長
委 員	立野新平	北海道ぼけ老人を支える家族の会 会長
委 員	畑薫	北海道市長会 事務局 主査
委 員	山内康弘	北海道町村会 事務局 主査
委 員	荒田吉彦	道立砂川保健所(美唄保健所兼務) 所長
委 員	武田俊彦	北海道保健福祉部 高齢者保健福祉課長

## 歴史①

- 平成10年 任意団体としてスタート  
 名称)北海道痴呆性高齢者グループホーム協議会  
 設立年 平成10年6月  
 (平成12年4月～平成12年9月28日までの任意団体での事業報告・決算書あり)  
 会長 林崎 光弘

## 歴史②

- ◆平成12年 特定非営利活動法人 取得  
名称)特定非営利活動法人 北海道痴呆性高齢者グループホーム協議会  
法人設立(登記簿より )平成12年(2000年)9月29日  
会長 林崎 光弘  
平成17年(2005年)1月  
会長 武田 純子 就任
- ◆平成17年(2005年)5月  
特定非営利活動法人 北海道認知症高齢者グループホーム協議会へ名称変更
- ◆平成23年(2011年)5月26日  
特定非営利活動法人 北海道認知症高齢者グループホーム協議会解散

## 歴史③

- ◆平成21年 一般社団法人 取得  
(公益法人を目指して)  
  
現在に至る

## 平成24年度 基本方針より ～5つの理念～

- ◆『認知症』と『人』の理解が、それぞれの地域(まち)のブロック活動を通じて、そこで暮らす方々に広く深く浸透される「公益ある」活動
- ◆地域(まち)の中で、その有する能力に応じ自立した生活が送れるように、住民・行政・医療・福祉等の関係者が一体となった「公益ある」活動
- ◆地域(まち)の中で、24時間『認知症』と『人』と『家族』を支える拠点として、他の事業者団体と共同した「公益ある」活動
- ◆『認知症』と『人』を支える事業者と職員が、自らの資質の向上を図り、その仕事へのやりがいを感じ、長く生き活きと務められる「公益ある」活動
- ◆調査・研究を通して情報の共有を図ることによる「公益ある」活動

## 会員の状況 (3月31日現在)

会員種別	会員数	北海道のGH数
正会員	408 (5/24現在は415)	885
賛助会員	29	

(正会員加入率 46.4%)

## ブロック別 会員状況 (3月31日現在)

ブロック	事業所数	会員数	加入率
札幌	261	103	39.4%
道央	44	11	25.0%
後志	57	21	36.8%
空知	58	21	36.2%
道南	79	40	50.6%
日胆	73	50	68.5%
十勝	69	15	21.7%
道東	49	41	83.7%
道北	134	64	47.7%
オホーツク	63	42	66.7%
合計	887	408	46.0%

## 協会の主な取組み①

- 総務委員会
  - ホームページの編集・更新
  - 各ブロック事務局支援
  - 永年勤続表彰
- 事業委員会
  - 広報誌の発行
  - 認知症ケアと地域づくり事例発表 北海道大会
  - 地域づくり(SOSネットワーク等)支援
  - 事業所基礎調査

## 協会の主な取組み②

### ■ 研修委員会

認知症介護実践者研修及び認知症対応型サービス事業

管理者研修(年3回)

認知症介護実践リーダー研修(年2回)

スタッフ研修(年3回)

ターミナルケア研修(年3回)

ターミナル研修スキルアップ講座(年1回)

札幌市より「札幌市認知症対応型サービス事業開設者・管理者研修」を受託

追加研修

若年認知症研修会

## 北海道における認知症介護実践研修 の推移と考察

一般社団法人

北海道認知症グループホーム協会

### 北海道／札幌市と当協会実践研修 修了者数の比較 (平成22年度～24年度)

	実践者研修	管理者研修	リーダー研修
北海道	6,160 【678】	697 【418】	1,834 【171】
札幌市	3,088 【64】	343 【45】	1,412 【8】
合計	9,248	1,040	3,246
当協会主催	【742】	【463】	【179】
	8%	44%	5%

※【】は、当協会主催の研修修了者数です。

### 当協会主催における 認知症介護実践研修(実践者研修)の推移と考察

実施年度	修了者数	実施回数	開催場所
平成22年度	259(A:51.8)	5回	◆北見 54 ・ 苫小牧 41 ◆帯広 43 ◆旭川 62(61/1) ◆札幌 59(36/23)
平成23年度	251(A:62.7)	4回	◆苫小牧 90 ◆北見 61(60/1) ◆旭川 65 ◆札幌 35(20/15)
平成24年度	232(A:77.3)	3回	◆札幌 85(61/24) ◆苫小牧 68 ◆旭川 79

考察

(A = 平均値average)

- ・毎年度開催数の減少があるものの、実際の研修参加者は増加傾向にある。
- ・会員の要望、希望での開催であるため、安定した地方での開催が可能である。
- ・札幌開催の特徴であるが、札幌の事業者の参加が少ない。
- ・指定団体の多くが札幌で開催するため、研修参加側の選択肢がある。
- ・協会主催への参加が少ないのは、会員としてのメリット感がないからと思われる。費用も含めての今後の課題である。

**当協会主催における  
認知症対応型サービス事業管理者研修の推移と考察**

実施年度	修了者数	実施回数	開催場所
平成22年度	189(A:37.8)	5回	◆北見 46 ・ 苫小牧 25 ◆帯広 34(33/1) ◆旭川 43(42/1) ◆札幌 41(24/17)
平成23年度	144(A:36.0)	4回	◆苫小牧 39 ◆北見 32(31/1) ◆旭川 50 ◆札幌 23(14/9)
平成24年度	130(A:43.3)	3回	◆札幌 61(45/16) ◆苫小牧 23 ◆旭川 46

- (A = 平均値average)
- 考察
- ・毎年度開催場所の減少があるものの、研修参加者の平均は増加している。
  - ・管理者研修に関しては、実践者研修と繋がっているのと、同じく会員の要望、希望での開催であるため、安定した地方での開催が可能である。
  - ・札幌開催の特徴であるが、札幌の事業者の参加がやはり少ない。
  - ・行政主催の管理者研修も開催しているため、充実した回数が確保されている。

**当協会主催における  
認知症介護実践研修(実践リーダー研修)の推移と考察**

実施年度	修了者数	実施回数	開催場所
平成22年度	55(A:18.3)	3回	◆札幌 15(8/7) ◆旭川 16 ◆函館 24
平成23年度	66(A:33.0)	2回	◆釧路 42 ◆七飯 24
平成24年度	58(A:29.0)	2回	◆旭川 32 ◆苫小牧 26(25/1)

- (A = 平均値average)
- 考察
- ・リーダー研修の日程が10日間と長期間に及ぶ為、研修参加が困難と思われる。
  - ・リーダー研修も同じく会員の要望、希望により開催だが、事前に参加者が見込めないと開催できない事実もある。
  - ・各団体もリーダー研修に関しては、開催に踏み切れない傾向にある。
  - ・ただし、当協会に関しては、会員の参加見込みが一定の人数であれば開催しており、開催の日程も、過去苫小牧開催の際取り入れた、1週間程間をおいて開催する等の工夫も凝らし、参加者や事業者への影響にも配慮する等し、平成25年度北見開催において再度同じ方法で開催する予定である。
  - ・そのため、地方開催の場合は安定した運営が可能である。

## 実践研修におけるメリットとデメリットの推察

- 当協会の大きな特徴でもあり、最大の強みは、10ブロックの力で運営できるという事です。今までは、地方の会員の最大の懸案であった経費の課題が、札幌開催中心の研修から、地方で開催することにより、地方から札幌へ行くための交通費、宿泊費等の経費削減に繋がりました。研修参加費と若干の交通費、日当で可能なのである。これは地方の会員事業所の経営者にとっては最大のメリットになりました。

### 【実践研修(4日間)釧路から札幌に1名出張に出した場合の経費】

釧路⇒札幌往復⇒JR代(片道ノ運賃6,090円・特急3,030円)	
	往復 18,240円
宿泊費⇒前泊、後泊も含め最短で5泊⇒一泊5000円としても	
	25,000円
日当⇒一日3,000円としても⇒5日間で	15,000円
	<b>合計 58,240円</b>

### 【実践研修(4日間)を釧路で行った場合の経費】

交通費⇒園車又は若干のガソリン代	
宿泊費⇒自宅から又は最短で3泊⇒一泊5,000円としても	
	15,000円
日当⇒一日3,000円としても⇒4日間で	12,000円
	<b>合計 27,000円(差額31,240円)</b>

## しかし、その反面。

- 札幌近郊のブロック、特に道央、日胆(特に苫小牧近郊)、空知(南方面)、後志(小樽近郊)、そして札幌の会員の場合は、多くの団体の研修が札幌中心の開催であるため、研修等の選択肢が豊かであるがゆえに、経費も地方の会員と比較しても、特にメリットを抱かないのはごく自然なことです。また、研修内容も、札幌という都会であるため、かなりレベルの高い研修会が多く開催されているのと同時に、講師も著名な方々の研修も容易に受けられる環境と言って過言ではないでしょう。ある意味、このことが協会の新たな課題若しくは懸案事項と言ってもいいでしょう。
- 今までは、札幌開催中心の研修日程であったために、地方の方にとってのデメリット感は大きかったでしょう。そのため、地方で、ブロックで開催できないものかと思案していました。しかし、先にも述べたように、ブロックの協力を得る事ができたために、地方開催が可能となったのです。地方のデメリットをメリットに変えようとした時に、やはり、デメリットも含めて克服して行こうとする気概と協力が、今までデメリットだった事をメリットへと変化させたのだと推察致します。

- このように、実践研修ひとつとってみても、自分の置かれている立場を最優先したメリットを主張すれば、平行線になるのは必至です。その位置や立場では、個々によってその違いがあり、その違いをお互いに共有し、理解し合い、他者の利益も考える事が出来る関係づくりが大切だと思います。どこかで折り合いをつけ、自分たちのできることは何かを考え、行動を起こし、お互いをリスペクトできる関係であると尚いいと思います。
- よりベストではなく、よりベターな選択は何かを共に考える行動できる仲間づくりが大切だと考えます。
- お互いが、Win・Winだと、尚いいのですが・・・。

## 将来／未来に向けて

- 認知症関わる仕事に携わっている全ての職員や人が受講することです。
- 更にリーダー研修を受け、その方々が、それぞれの事業所の研修会や勉強会の講師となり、現場での研修が行えるようになることです。
- 更に、リーダー研修を受けられた方々が、ブロック内の1年未満の新人の方々の研修、つまり実践者研修を受けられるまでの職員の方々の研修も含めて担当できるようになると、ブロックや地域内の研修も充実してくるでしょう。
- 一番の効果は、講師を担い、人に伝える事で、自分自身の勉強になるということです。職員の方々が、自分自身を高められる環境をブロック内又は地域、更には事業所内に設ける事でケアの質は高まるでしょう。そのことが、入居されている方々の最大のメリットに繋がり、私達のメリットとなるでしょう。
- そして、その担い手の中から、更なるステップアップ、キャリアアップとして指導者研修へ繋がると、尚ブロックや地域、そして事業所にとってのメリットとなるでしょう。
- そこを目指しています。

## 協会の主な取組み③

### ■ 北海道認知症地域コーディネーター委員会

北海道認知症地域コーディネーターフォローアップ研修  
会員向けの研修会(全道レベル)の企画・立案・運営  
認知症ケアと地域づくり事例発表北海道大会にて実践事例発表

## 虐待予防等に関する取組み①

### ◆ 他団体と共催した研修会の実施

『グループホームをめぐる苦情に対する研修会の開催』

日時 平成24年(2012年)2月21日

参加者 219名

開催場所 札幌

講師 米本 秀仁 氏 (北星学園大学社会福祉学部 福祉臨床学科 教授  
北海道福祉サービス運営適正化委員会 委員長)

共催 公益社団法人 日本認知症グループホーム協会北海道支部 との共催

『認知症グループホーム職員研修会 ～グループホーム職員による虐待事例をふまえて～』

日時 平成24年(2012年)4月13日、5月7日

参加者 約180名、約160名

開催場所 札幌

講師 三瓶 徹 氏 (北海長正会 北広島リハビリセンター  
特養部四恩園 理事・施設長 北海道老人福祉施設協議会 会長)

共催 公益社団法人 日本認知症グループホーム協会北海道支部 との共催

## 虐待予防等に関する取り組み②

### ◆当協会及びブロックが主催した研修会の実施

『高齢者虐待に関する研修会 ～高齢者虐待の状況と介護職員のストレスとコーピング～』

日時 平成24年(2012年)5月29日

参加者 121名

開催場所 スキルアップセンター苫小牧

講師 宮崎 直人 氏 (有限会社グッドライフ グループホームアウル総合施設長)

『高齢者虐待に関する研修会 ～高齢者虐待の状況と介護職員のストレス～』

日時 平成24年(2012年)7月15日

参加者 157名

開催場所 帯広(十勝ブロック)

講師 斎藤 しのぶ 氏 (北海道十勝総合振興局 社会福祉課 主査)

石川 秀也 氏 (北海道医療大学 看護福祉学部臨床福祉学科長・教授)

宮崎 直人 氏 (有限会社グッドライフ グループホームアウル総合施設長)

『事業所内虐待とその対策』

日時 平成24年(2012年)7月6日

参加者 約140名

開催場所 旭川(道北ブロック)

講師 三瓶 徹 氏 (北海長正会 北広島リハビリセンター

特養部四恩園 理事・施設長 北海道老人福祉施設協議会 会長)

## 虐待予防等に関する取り組み③

### ◆ その他の関係団体との連携による取り組み

○『高齢者虐待に関する研修会 ～高齢者虐待の状況と介護職員のストレス～』

日時 平成24年4月28日 参加者 約200名

開催場所 七飯町文化センター 主催 七飯町 七飯町グループホーム連絡会

講師 石川 秀也 氏 (北海道医療大学 看護福祉学部臨床福祉学科長・教授)

宮崎 直人 氏 (有限会社グッドライフ グループホームアウル総合施設長)

○『なくそう！考えよう！高齢者虐待』研修会

日時 平成24年6月23日(土) 参加者 約300名

開催場所 函館大学

「函館市の高齢者虐待への対策について」

川越 英雄 氏 (函館市保健福祉部長、函館市要援護高齢者対策ネットワーク協議会 会長)

「グループホーム及び高齢者福祉施設における虐待の構図」

林崎 光弘 氏 (南北海道グループホーム協会 会長)

「パネルディスカッション」

【座長】 大橋 美幸 氏 (函館大学 准教授、函館認知症の人を支える会)

【助言者】 谷内 弘道 氏 (北海道認知症疾患医療センター指定病院 富田病院認知症総合医療センター センター長)

林崎 光弘 氏 (南北海道グループホーム協会 会長)

【パネラー】 平井 喜一 氏 (嶋田法律事務所 弁護士)

熊木 勝弘 氏 (函館市地域包括支援センター連絡協議会 会長)

久保田 かおり 氏 (道南地区老人保健施設事務長連絡会 介護老人保健施設ゆとりろ マネージャー)

佐藤 悠子 氏 (函館認知症の人を支える会 会長)

主催 南北海道グループホーム協会

函館認知症の人を支える会

後援 函館市 一般社団法人北海道認知症グループホーム協会道南ブロック

## 虐待予防等に関する取り組み④

### ◆各事業所単位での取組みを応援・支援

協会ホームページ上にPDF資料を掲載し、それぞれの事業所単位でプリントアウト(A4サイズ6枚)していただき、そのまま半分に折り、ホチキスでとめて小冊子を作成する取組みを検討中。目的は、現場で虐待予防等の直接的な啓蒙・啓発活動を行う準備をすすめています。

このことは、虐待予防等に限らず、あらゆるテーマで小冊子化を図ることが可能となり、事業所単位での直接的な質の向上につながると思います。

## 平成26年度への提言

## 基本となる点の確認

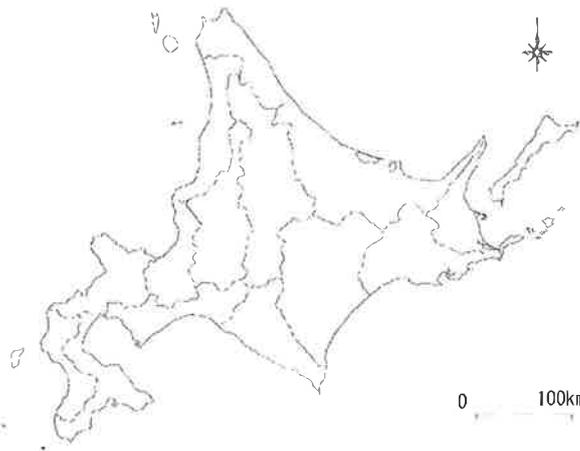
- 私たちが志を同じくする者同士が集まり会を創った理由は、認知症対応型共同生活介護サービスを利用される入居者の尊厳の保持とその有する能力に応じた自立した日常生活が営めるように支援することを第一に考え、そのサービスの質が保たれるように互いに研鑽していこうというものであること。

## 今年度の5つの重点課題

1. 4年目の協会は、ブロック活動活性化型の協会運営への転換期と位置づけた活動  
(ブロック活動が充実されることは、より会員に近いところでの協会活動への参加を通して、直接会員のメリッ  
感の経験と体験が展開できると考えるからです。)
2. オレンジプランとの関連性を意識した活動  
(特にブロック活動の得意分野である、地域との連携／  
医療との連携が重点)
3. ブロック活動費の導入実現に向けた検討  
(平成26年度予算に導入)
4. 災害支援ネットワーク基金の設立に向けた検討と実現
5. ホームページの活用

## 1. ブロック活動活性化型の協会運営への 転換期と位置づけた活動

## ブロック活動活性化への提言



## 10ブロックの現状

平成25年3月31日現在

ブロック	事業所数	会員数	会費算定人数	ブロック毎 会費収入	加入率
札幌	261	103	1681	3,362,000	39.5%
道央	44	11	171	342,000	25.0%
後志	57	21	320	640,000	36.8%
空知	58	21	322	644,000	36.2%
道南	79	40	682	1,364,000	50.6%
日胆	73	50	786	1,572,000	68.5%
十勝	69	15	240	480,000	21.7%
道東	49	41	632	1,264,000	83.7%
道北	134	64	1002	2,004,000	47.8%
オホーツク	63	42	648	1,296,000	66.7%
合計	887	408	6,484	12,968,000	46.0%

## 日胆ブロックの場合

## ブロック内にある組織と活動

### ☆日高地区

日高管内グループホーム協議会

### ☆胆振地区

・苫小牧グループホーム連絡会

・西胆振グループホーム連絡会(代表者はなし)

西胆振に存在する全てのグループホームが所属

登別地区／室蘭地区／伊達・洞爺湖町・豊浦地区

(事務局持ち回り)

研修会と親睦が目的

・登別グループホーム友の会

## 運営に関して

- 決まった会費の徴収はありません。
- 研修等必要に応じて参加費として徴収し、基本的に収支ゼロで決算しています。
- 会議場所は、日胆のほぼ真ん中にある苫小牧にある、日胆ブロック選出理事である釜谷さんの事業所をお借りしています。
- 日胆ブロック事務局は、白老町にある事業所にお願ひし、ひとつの事業者や役員に負担がかからないように役割分担しています。
- 事務経費に関しては、協会からの費用でまかない、その他の経費に関しては、応分に責任を分かち合っています。
- 実践者研修の運営に関しては、日胆理事、役員、コーディネーターで役割分担をしています。
- 会場に関しては、苫小牧が中心となりますが、今年度から苫小牧駒沢大学と連携し、各安で会場を借りることができるようになりました。(食堂使用可、駐車場無料等)

## ブロックの課題

- ブロック運営費の課題

現在はキャリアパス等の国の助成金等を活用した活動ができていますが、これもいつまで続くかわからないと捉えると、経費的にみても継続的な会員のメリットに繋がる活動への不安がある。

## 2. オレンジプランとの関連性を意識した活動

特にブロック活動の得意分野である  
地域との連携／医療との連携が重点

## 『オレンジプラン7つの視点』

1. 認知症ケアパス(状態に応じた適切なサービス提供の流れ)の作成・普及
2. 早期診断・早期対応
3. 地域での生活支援の医療サービス構築
4. 地域での生活支援の介護サービス構築
5. 地域での日常生活・家族支援の強化
6. 若年認知症施策の強化
7. 医療・介護を担う人材育成

## 5つの提言とオレンジプランの相関

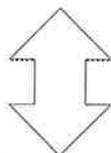
- 1) 認知症と人の理解が、それぞれの地域(まち)のブロック活動を通して、そこで暮らす方々に広く深く浸透される活動
  - ◆ 地域での生活支援の医療サービス構築
  - ◆ 地域での生活支援の介護サービス構築
- 1) 地域の中で可能な限り最後まで支え続けられるよう、住民・行政・医療・福祉等の関係者が一体となった充実した連携活動
  - ◆ 認知症ケアパス(状態に応じた適切なサービス提供の流れ)の作成・普及
  - ◆ 早期診断・早期対応
  - ◆ 地域での生活支援の医療サービス構築
  - ◆ 地域での生活支援の介護サービス構築
  - ◆ 若年認知症施策の強化
- 1) 地域の中で24時間、認知症と人や家族を支える拠点として、他の事業者団体と共同した活動
  - ◆ 認知症ケアパス(状態に応じた適切なサービス提供の流れ)の作成・普及
  - ◆ 地域での日常生活・家族支援の強化
- 1) 認知症と人を支える職員が、自らの資質の向上を図り、その仕事へのやりがいを感じ、長く生き活きと働き続けられる活動
  - ◆ 医療・介護を担う人材育成
- 1) 調査・研究を通して情報の共有を図ることによる活動

# ① 介護現場の現状

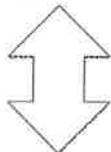
## 介護現場の現状

対策として

- 認知症の理解⇒不十分



- 不適切な支援



- 身体拘束や虐待につながる可能性がある

### 【研修の実施】

- ◆国が定める研修
  - ・認知症介護実践者研修
  - ・認知症介護実践リーダー研修
  - ・認知症介護指導者研修
- ◆各団体主催の研修
  - ・各協会／協議会／学会等が行なう研修
  - ・道市町村主催の研修等
- ◆職場内の研修
  - ・各事業所毎で行なう研修
- ◆その他
  - ・受診時における医師からの適切なアドバイス

## ② 医療との連携

### 医療と介護現場との具体的な例

- BPSDへの対応が困難
- ↓
- 困っている事だけを伝えてしまう
- ↓
- 強い薬だけが処方される
- ↓
- さらに別な問題が生じてしまう事に

## 医療と介護現場の狭間で起こっている事の一例

### 適切な情報の収集

- 起こっている現象だけでは  
ない情報も含めた総合的な  
判断に基づくアドバイス

### 適切な情報の伝達

- 起こっている現象だけでは  
ない情報も提供できるアセ  
スメント能力と総合的な伝  
達能力

適切な診断と処方

信頼感に基づく本当の意味での連携

## 医療と介護現場との連携の一例

(『認知症 専門医が語る診断・治療・ケア』池田 学 著 中公新書 より)

- グループホームに入居中の方が激しい物盗られ妄想と興奮を呈したために受診
- アルツハイマー病に伴う物盗られ妄想と診断し、同伴してきたスタッフに当事者たちの接触時間を物理的に減らしてみようというようにアドバイス。ところが、一ヶ月後の予約日を待たずに再び受診があり、先生の言う通りに工夫してみたが狭いグループホームの中では限界があり収まらないとスタッフは疲れ果てている。そこで、入居者さんの身体を確認してから、家族も交えて非定型の向精神病薬をごく少量投与することを提案。もちろん、可能性のあるリスクの説明も行なう。そして、ようやく物盗られ妄想が対応可能な程度に減少すると、次の受診は予定通りになり、入居者さんにも落ち着きがみられスタッフにも笑顔が戻ってくる。
- このような経験を積み重ねていくことでしか、信頼感に基づく本当の意味での連携は生まれて来ない

### ③ 今後の課題と展望(提案・提言)

『医療と介護現場との一体的な支援を目指して』

～ 西胆振の取組みからみえてきたもの ～

### それぞれの取組みの現状

【認知症関連学会と問い合わせ結果】

老年医学会... 認知症も含めた老年医学の専門医としての認定

認知症ケア学会... 医師以外でも専門士として認定

日本精神病院協会... 認知症臨床専門医として認定

日本認知症学会... 西胆振⇒0人

認知症介護指導者

※室蘭市医師会に問い合わせたところ、医師会でも専門医の把握は行なっておらず、各学会に問い合わせるしかないとのこと

**ちなみに当事業所がある胆振における  
「認知症サポート医」「認知症かかりつけ医」等の数**

- 認知症サポート医: 5人(平成24年度現在)  
    登別 2人 伊達 1人 苫小牧 2人
- 認知症かかりつけ医: 51人(平成23年度現在)
- 日本精神科病院協会 認知症臨床専門医 1人
- 認知症介護指導者 3人
- 認知症専門士 191人

※認知症疾患医療センター: 4病院

    登別市... 三愛病院・恵愛病院

    伊達市... 日赤病院・ミネルバ病院

**北海道における認知症サポート医養成研修終了者  
(平成24年3月31日現在)**

圏	域	数
札	幌	23
石	狩	1
上	川 中 部	3
後	志	2
南	渡 島	4
	(内1人他県より転入)	
十	勝	2
釧	路	2
北	網 走	2
東	胆 振	3
西	胆 振	2
中	空 知	1
合	計	45

北海道におけるかかりつけ医認知症対応向上研修終了者(平成23年3月15日現在)

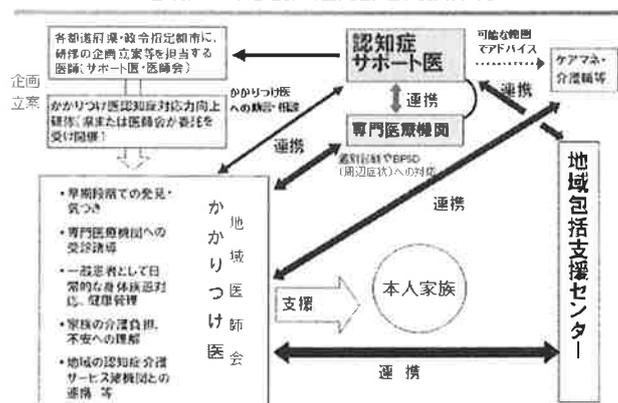
振興局	数	市 町 村
石 狩	30	石狩市 恵庭市 江別市 北広島市 札幌市 千歳市 当別町
渡 島	52	木古内町 知内町 七飯町 函館市 福島町 北斗市 松前町 森町 八雲町
檜 山	3	江差町 せたな町
後 志	32	岩内町 小樽市 共和町 倶知安町 泊村 真狩村 余市町 蘭越町
空 知	51	赤平町 芦別町 岩見沢市 栗山町 新十津川町 砂川市 滝川市 奈井江町 南幌町 沼田町 美瑛市 深川市 夕張市 由仁町
上 川	68	愛別町 旭川市 上富良野町 士別市 下川町 鷹栖町 中富良野町 名寄市 東神楽町 東川町 比布町 富良野市 幌加内町
留 萌	4	遠別町 留萌市
オホーツク	26	網走市 遠軽町 雄武町 置戸町 興部町 北見市 美幌町 紋別市
胆 振	51	安平町 白老町 壮瞥町 伊達市 洞爺湖町 苫小牧市 登別市 むかわ町 室蘭市
日 高	6	浦河町 新ひだか町 日高町
十 勝	43	音更町 芽室町 広尾町 士幌町 上士幌町 清水町 足寄町 帯広市 大樹町 池田町 本別町 幕別町
釧 路	18	釧路市 厚岸町 弟子屈町 白糠町 標茶町
根 室	4	中標津町 根室市
合 計	388	30市 62町 2村

『認知症』にかかわる専門職における地域別比較分布表

	サポート医	かかりつけ医	日本認知症学会専門医	認知症指導者	認知症専門士	日精協臨床専門医
札 幌 市	23	701(延)	15	14	701	5
石 狩	1	30	0	5	150	
渡 島	4	52	2	2	128	
檜 山	0	3	0	0	8	
後 志	2	32	0	2	78	
空 知	1	51	0	1	126	
上 川	3	68	3	4	185	
留 萌	0	4	0	0	3	
オホーツク	2	26	0	3	59	
胆 振	5	51	0	3	191	
日 高	0	6	0	0	14	
十 勝	2	43	0	7	108	
釧 路	2	18	1	4	41	
根 室	0	4	0	0	20	
宗 谷	0	0	0	0	19	
合 計	45	1089	21	45	1831	5

## 参考資料(厚生労働省ホームページより)

かかりつけ医・サポート医が参画した  
地域における認知症高齢者支援体制



## 提案／提言

### 『認知症専門部会をそれぞれの地域に設置する！』

- ◆ 構成員... 先程の認知症にかかわる各専門分野の方々  
(ここに集っている皆さんです！)
- ◆ 開催頻度... 月一回の開催(年12回)
- ◆ 目的...
  - 1) 地域における人材育成
  - 2) 顔の見える関係の構築と連携
  - 3) 相互相談の仕組みの確立
  - 4) かかりつけ医のフォローアップ
  - 5) 介護スタッフのフォローアップ
  - 6) 在宅支援
- ◆ 内容...
  - 1) 一ヶ月間に経験した事例／症例の中で検対応がもっとも難しかったケースの検討会を開催(月一回)
  - 2) 認知症に関する基本的な研修
  - 3) 一年間の活動を地域住民にフィードバックする(新聞、雑誌、報道、回覧等)
  - 4) 認知症に関するフォーラムを開催
  - 5) 出前研修(地域へ出掛ける)

## 資料の提供及び協力をいただいた方々

(敬称略)

- ◆『認知症 ～専門医が語る診断・治療・ケア～』(池田学著:中公新書)
- ◆『北海道保健福祉部福祉局 高齢者保健福祉課高齢者計画推進グループ』より資料提供
- ◆『胆振総合振興局保健環境部保健行政室 企画総務課保健推進係』より資料提供
- ◆『札幌市』より資料提供
- ◆『厚生労働省』ホームページより
- ◆『日本認知症学会』『日本精神病院協会』『日本認知症ケア学会』ホームページより
- ◆『認知症介護研究・研修仙台センター』より資料提供
- ◆『認知症介護指導者ネットワーク』より資料提供

55

### 3. ブロック活動費の導入実現に向けた検討

(平成26年度予算に導入)

## 10ブロック活動費の導入について

### ■【目標・目的】

ブロック活動がより充実されることは、より会員に近いところでの協会活動への参加を促進し、直接会員であることのメリットを経験、体験が展開できると考えるからです。会員のメリットとは、会員事業所に入居されている方々が例え認知症という状態であっても、安心して生活を営むことのできるよう、認知症支援のスペシャリストが支えることができるということであり、またそのことを継続的に与え、受けることのできるということです。

そのため、ブロック活動への相応の予算を計上することを計画致します。また、この会員のメリットが広く地域密着型のサービス事業所に浸透していくためにも、会員の拡大にも同時に尽力を注ぎます。

注) 予算額については、今後ルールづくりも含めて議論が必要と思われる。

## 導入方法について

### ◆一律導入方式

以前のように、10ブロック一律の金額の導入

### ◆会員加入率導入方式

上限額を設定し、その上限額に対してブロック毎の加入率を換算し金額を決定する

例えば ブロック活動費上限額30万とした場合 × 加入率

注: 会員加入率といっても

札幌ブロックの場合 全事業所数261(分母)  
会員事業所数103(分子)の割合 差158

十勝ブロックの場合 全事業所数69(分母)  
会員事業所数15(分子)の割合 差54

単純に加入率で決めてよいものか、分母の格差をどうみるかという疑問もある

## 導入方法について

### ◆加入率段階方式

段階方式(10%毎)に予算設定し、それぞれの加入率が該当する金額とする。

例)

0%～10%

10%～20%

20%～30% 道央 十勝

30%～40% 札幌 後志 空知

40%～50% 道北

50%以上 道南 日胆 道東 オホーツク

※但し、ブロック活動費の全体の上限は定める。(但し、年度収支に応じて変動するというルールは必要)

## 導入方法について

### ◆協会版・ブロックキャリアパス事業(仮称)

予算の上限を決めた上で、各ブロックの事業計画を事前に提出していただき、予算の範囲内で助成する事業。

### ◆内容の例

- ・ブロック内研修会や勉強会
- ・ブロック内事例発表会
- ・ブロック大会
- ・ブロック内会員交流会
- ・テキストや研究報告冊子等の成果物作成
- ・近隣ブロックとのコラボ企画も歓迎(予算が倍になる?)
- ・地域づくり(SOSネットワーク)支援等の啓蒙活動
- ・その他、臨機応変に内容範囲の幅を広げる

## 4. 災害支援ネットワーク組織(基金) の創設について

仮称

『北海道おせっかい支援ネットワーク』

### 目的

私たちは、東日本大震災を教訓にして災害時に備え平素から連携を図っていくことを目的として、下記に掲げる「ネットワークの約束事」を遵守し、それぞれがしっかりと自立的に災害に備えるとともに、災害が発生した地域のネットワーク加盟法人に対して、罹災法人からの要請を受けなくとも(おせっかい)自主的に支援活動に当たることなど「約束事」を以ってネットワークを構成します。

## 趣旨

私たちは災害時に備えて、ここに災害支援ネットワーク組織(基金)を結成(創設)し連携を図っていくものです。

下記に掲げる「当ネットワークの約束事」を遵守し、災害に備えるとともに、災害が発生した地域のネットワーク加盟法人に対して、罹災法人からの要請を受けなくとも自主的に支援活動に当たることを互いに遵守します。

## 約束事

- 1 北海道おせっかい支援ネットワーク基金を創設する。
- 2 会員法人は、それぞれの事業所において、当ネットワークで共通化した最低限の非常災害用品を怠りなく備蓄する努力をする。また、基金を活用し、すみやかに支援できる備えをする。
- 3 災害発生時には、すみやかに基金を活用し、罹災地域会員法人からの要請を受けなくとも、速やかに会員法人に対して「物資・人・支援金」を届ける。届ける量はその状況での裁量に委ねる。
- 4 支援を受けた罹災法人は、自事業所のことはもとより、社会的使命をもって関係する法人ならびに近隣住民等の支援にあたる。
- 5 年1回の学習交流会を開催し、学び・つながりを深めることを怠らない。

## 基金の財源について

- 基金の基本財源については、平成23年5月26日付けをもって解散致しました、特定非営利活動法人北海道認知症高齢者グループホーム協議会よりの寄付金を全て基金の財源とし、いづどこで起こるやも知れぬ災害への備えを、当協会の社会的使命のひとつと捉え、その使命に基づいた災害支援の活動に活用することを、災害支援ネットワーク組織創設と共にご提案いたします。寄付金額：3,998,693円  
うち、91,976円はコピー機等消耗品費で計上

## 組織構成員について

- 組織構成員に関しては、当協会理事会メンバーとします。
- 必要に応じて、理事会の承認を得て、メンバーを補充することができる。

## 5. ホームページの活用

### 『しゃべり場』

- この度『しゃべり場』なる広場を設けました。
- この広場は、この協会の会員のみならず、認知症を持つ方々を様々なお立場で日々支えていらっしゃる方々の声を置ける場所があったらいいという多くの皆様の声に応えて考えられた場所です。
- 色々な想いや声を出そうと念っても、そもそもそのような場所がないというのが現状でした。
- 皆様が、利用される、利用されない関係なく、その場があるとうだけでも意義があると考えます。
- 将来この『しゃべり場』が、皆様の拠り所となることを願い、それぞれの希望の『VOICE』を届けていただければ幸いです。

## 『ジョブ(Job／仕事)り場』

この度、新たなサイトを設けました。事業所と人を結ぶ場です。介護の仕事を探している人、介護の担い手となる人を探している事業所を結ぶサイトです。会員の皆様からの声を形にしてみました。限られた場だけではなく、協会の独自の取組みとして、ホームページを活用し、人と人をつ結びつきたい、ネットとネットとの関係から、顔と顔(フェイスtoフェイス)の関係へと繋げたい。そして、認知症の状態にある人への支援の担い手がひとりでも多く生まれることを願って、活用していただければと思います。

## 『アンケートの実施』

- 今年度の基礎調査に関しては、ホームページ上でお応えいただくことができないかを検討致します。
- 全国GH連のアンケート方式で行うことを検討致します。

## 会員の声は

- 会員の声は広く、皆様に届くようすると同時にしっかりと応えていくことをホームページの活用も同時にすすめていきます。
- 多くの声を届けて下さい。できれば紳士的にお願いできれば、なお有難く建設的で前向きな議論になると思います。

## 平成26年度への提言

## 基本となる点の再確認

- 私たちが志を同じくする者同士が集まり会を創った理由は、認知症対応型共同生活介護サービスを利用される入居者の尊厳の保持とその有する能力に応じた自立した日常生活が営めるように支援することを第一に考え、そのサービスの質が保たれるように互いに研鑽していこうというものであること。

## 今年度の5つの重点課題

1. 4年目の協会は、ブロック活動活性化型の協会運営への転換期と位置づけた活動  
(ブロック活動が充実されることは、より会員に近いところでの協会活動への参加を通して、直接会員のメリッ  
ク感の経験と体験が展開できると考えるからです。)
2. オレンジプランとの関連性を意識した活動  
(特にブロック活動の得意分野である、地域との連携／医療との連携が重点)
3. ブロック活動費の導入実現に向けた検討  
(平成26年度予算に導入)
4. 災害支援ネットワーク基金の設立に向けた検討と実現
5. ホームページの活用

**ありがとうございました。  
ご清聴を感謝致します。**

宮崎